

特42

456

正訂觀世流儀內百贊

百  
贊

56



百萬

行馬よしやま道の金刀丸

軍記

是れ和州三芳野の者

西大寺の寺の金を貰ひて此

此へ歸詰め大人念へて承よ此を取

人を遣すか。人佛よし事のやと在

あらわしの食の拘るやうに  
 とどけられた  
 地  
 南<sup>トガ</sup>をうぶ色<sup>トガ</sup>  
 佛<sup>トガ</sup>  
 上<sup>トガ</sup>地<sup>トガ</sup>をうけた  
 菩<sup>トガ</sup>提<sup>トガ</sup>ム  
 行<sup>トガ</sup>ふ色<sup>トガ</sup>ム  
 世<sup>トガ</sup>  
 ヤ<sup>トガ</sup>門<sup>トガ</sup>の<sup>トガ</sup>頼<sup>トガ</sup>ム  
 あ<sup>トガ</sup>肉<sup>トガ</sup>月<sup>トガ</sup>あ<sup>トガ</sup>や<sup>トガ</sup>雲<sup>トガ</sup>を<sup>トガ</sup>西<sup>トガ</sup>  
 や<sup>トガ</sup>行<sup>トガ</sup>く<sup>トガ</sup>人<sup>トガ</sup>や<sup>トガ</sup>あ<sup>トガ</sup>た<sup>トガ</sup>  
 誰<sup>トガ</sup>人<sup>トガ</sup>  
 願<sup>トガ</sup>あ<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>た<sup>トガ</sup>の<sup>トガ</sup>ゆ<sup>トガ</sup>く<sup>トガ</sup>が<sup>トガ</sup>日<sup>トガ</sup>  
 が<sup>トガ</sup>

お<sup>トガ</sup>む<sup>トガ</sup>お<sup>トガ</sup>ね<sup>トガ</sup>地<sup>トガ</sup>  
 い<sup>トガ</sup>ん<sup>トガ</sup>を<sup>トガ</sup>か<sup>トガ</sup>め<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>ち<sup>トガ</sup>  
 車<sup>トガ</sup>あ<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>ぬ<sup>トガ</sup>地<sup>トガ</sup>  
 や<sup>トガ</sup>え<sup>トガ</sup>も<sup>トガ</sup>あ<sup>トガ</sup>  
 小<sup>トガ</sup>え<sup>トガ</sup>ん<sup>トガ</sup>を<sup>トガ</sup>ひ<sup>トガ</sup>き<sup>トガ</sup>え<sup>トガ</sup>ん<sup>トガ</sup>と  
 く<sup>トガ</sup>ら<sup>トガ</sup>よ<sup>トガ</sup>連<sup>トガ</sup>み<sup>トガ</sup>力<sup>トガ</sup>頼<sup>トガ</sup>や<sup>トガ</sup>東<sup>トガ</sup>南<sup>トガ</sup>  
 ま<sup>トガ</sup>り<sup>トガ</sup>ふ<sup>トガ</sup>陰<sup>トガ</sup>上<sup>トガ</sup>青<sup>トガ</sup>  
 は<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>よ<sup>トガ</sup>ま<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>と<sup>トガ</sup>ぎ<sup>トガ</sup>や<sup>トガ</sup>て<sup>トガ</sup>  
 や<sup>トガ</sup>く<sup>トガ</sup>臍<sup>トガ</sup>月<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>と<sup>トガ</sup>墨<sup>トガ</sup>ヤ<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>よ<sup>トガ</sup>  
 や<sup>トガ</sup>臍<sup>トガ</sup>月<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>と<sup>トガ</sup>墨<sup>トガ</sup>ヤ<sup>トガ</sup>う<sup>トガ</sup>よ<sup>トガ</sup>

ああ世は高三界の尊をや。おう  
車れどもよしとありてひく徳  
えりえりえ石トヤ ひきや 汽車  
地トヤ わああトヤ き者萬うなが  
奉トヤ りあわせの輪トヤ 莲輪トヤ  
馬トヤ かうだらか馬トヤ トカ  
下女トヤ み眉根トヤ まほらまほら  
又眉根トヤ まほらまほら

\*  
「うれしと人トヤ うき思トヤ うふ人トヤ  
そめきトヤ 親トヤ お母トヤ あを良トヤ 肩トヤ  
続トヤ てトヤ まよわトヤ と結トヤ く  
肩トヤ うけトヤ うきトヤ おとがこきの  
ト白トヤ みゆトヤ おう南無釋迦彌陀佛と  
信トヤ からひを教トヤ すよめんこあり  
ト女トヤ あやかみを教トヤ すよめんこあり

狂歌のあらわしを安穂よりもやさしく人  
子子の間子でやくわすれたり けよかえ

子子風風がおおむとよし奥奥バ山郷山郷乃  
母母あして山山がいきよへまかみまかみめ様様  
かくかくとてはるはる山山氣氣風風のまわる

やくと家家あらわす風風のまわる  
山山氣氣風風のまわる

あらわすへと着着 空空金金風風の都

早

よ百方よひゃくとと者者かへて山山行行故故が換換  
ねねとと成成たた一一妻妻よよかかてあ  
ききび獨獨うち形形見見の翠翠よよせ  
離離して山山よよれれて山山一一極極と

そそとと者者かへて嫁嫁かへて嫁嫁  
仁仁也也もああとと故故よ社社をを祭祭り

其を以ては爾も之等。弟も其等より  
巴のちと車の走色を以て。冷ひ  
ヤリを以て其の走りを達しとひや  
半ば、  
つゝ痛がれやうへ誠信にわづ  
かくが狂群集むる中よおどりて曰  
舞はる。うきよの言葉を

トセトキハ此の御事。やあつて考へ人によ  
奉る。元洪帝佛も。眞臘國長をと  
被る。上口、五、一、・、トニ  
被る。秋子は翁よむ乃社あ  
まや。親女。翁の袖あへや。百万う  
舞をアラシ。女ト、トキアラウツヌ舞の袖  
被る。行來の事あり。さうや。おきこ  
三十六行。その事あは。宿の時かへ

故郷もあ、此也、も行ひよるや  
 サ女牛羊徑通、かたわら鳥糞ねづねの草  
 あ、アシカアシカアシカアシカアシカ  
 行、水の川の暑アヒトいアヒトいアヒト  
 槿シラタケ露スルの古アヒト綱ハシよ、女  
 まアヒトまアヒトまアヒトまアヒト  
 まアヒトまアヒトまアヒトまアヒト  
 まアヒトまアヒトまアヒトまアヒト

愛アヒトおアヒトれアヒトと成アヒトる  
 乾アヒトの  
 杖アヒトあアヒトし波アヒトの氣アヒトあアヒトる  
 名アヒト、  
 ウアヒト大アヒト小アヒト坂アヒト。こアヒトてアヒトがアヒトはアヒト國アヒトと  
 かアヒトもアヒト僕アヒトのアヒト海アヒトのアヒト底アヒトとアヒト沖アヒトと  
 あアヒトるアヒト學アヒトあアヒトくアヒトすアヒトあアヒトるアヒト年アヒトあアヒトる  
 せアヒト病アヒト月アヒトのアヒト敷アヒト。うアヒト禪アヒト乃アヒト大アヒト寺アヒトの  
 柳アヒト陰アヒトあアヒトるアヒト白アヒト露アヒト。こアヒトも

御城へ入らむにあらずと  
かひゆの里アシあらわせとあるのいふ事も  
あつて、大和國の都ヤマトノミコトを立てて、角ヤク  
三笠ミツカニをほり、山城ヤマニシを築いて、山城  
よしもと重元ヨシモトヒタツムラが、  
ひと西敵ヒタチノシキをうけたる事ありき。  
て、自日と萬葉の年ヨハニの間シテ、

あり詠アリヨウ。すなほきそり行スナホキソリは、於此處と  
ゆづく。御城ミコトノシの、すな馬スナハつて、四方  
を、鷹タカと、詠ヨウ。ハヤ、若ハサカうるぬみ、龜  
山カメヤマ。すな馬スナハ大井タガ丁ヂ城シ。よ、萬葉の  
さやあわや盛アハハ行アハハ山アハハ稱アハハ風アハハの、  
乃尾アハハ金アハハの、黒アハハタ震アハハ立アハハそつを  
小鹿アハハの、彼アハハアハハ、多野アハハ花アハハ夜アハハ貴アハハ縣アハハ

群集する此寺乃は、  
どうもこれよりも附寺なり有難  
き。かくも御子有すが故に、  
あま在二代中内侍にとがひ  
あふ道のなかある。さて、既肩觸  
磨うるゝ赤梅檜がる密やく  
ト力と現て。天竺震旦称謂三國よ

上段、  
廣、  
大、  
安居の唐土と申すが如摩那まぐの  
奈良乃法為あへし。らぎ古母とうりへ  
たまよ道えり。悦居人内力  
あらへ母と申すが如と申す方を  
へあち、感歎してそ前をも親子あ  
まつ袖あわや百萬う舞と見ゆ

也上心ト  
あくまの离や風程多めか人乃  
アムあとや本成の心也候事。我子  
高也者もしくは南無釈迦牟尼  
如と祖人あらモかよき也尊と信へ  
也。南無門徒色佛也。釋迦牟尼  
南無う色佛也。あらむも運縁あ  
カ。がくもあらむ也。かくも運

平生  
ありてかの痛いや身に附てと此  
尋ねる。かよ能くよかと見ゆる。よ  
うかつてよとて身を落すたまはあら  
ト。かくよかくよかくよかくよか  
くよかくよかくよかくよかくよか  
優曇梵の。かくえたり。おぞらう  
うかかくよかくよかくよかくよか

とよひ。祇伊太守はもとより  
意氣のあめの父あきは母さちをよむる  
考へ去乃うううううううううう  
三弓の車路どもやこようくお城  
あよ

右之本者觀世太夫織部从章向  
眞本令放行畢

天保十一庚子歳孟春改正再版

皇都三条通御幸町西江入町

旧 山本長兵衛



定價三錢

明治廿六年二月十七日印刷  
明治廿六年二月同日訂正出版  
明治廿六年三月十九日別製本御届

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地  
宮内省御用達

板權

所有

發行者 京都市上京區三条通御幸町壹番  
美印刷者 檜常之助



